

第 52 回
杏林医学会総会
プログラム・抄録集

市民公開講演会

研究報告

医学部学内研究助成
保健学部共同・個人研究奨励賞
杏林医学会研究助成金制度

一般口演

会期：令和 5 年 11 月 18 日（土）

会場：杏林大学医学部講義棟 A 小講義室 503, 504, 505, 604

大学院講堂

第 52 回杏林医学会 総会

第一部：一般口演・研究報告 演者の皆様へ

- 当日は、発表開始予定時間の 15 分前までに、医学部講義棟 A 5 階エレベーター前の受付にお越しく下さい。
受付後、発表会場への移動をお願いいたします。
- 発表時間は、10 分（発表 6 分、他移動・質疑応答等 4 分）です。
タイムキーパー系の学生が、発表開始後 6 分経過した時点でベルを鳴らします。
終了予定時間になりましたら再度ベルを鳴らしてお知らせします。
- PC は、講義室の教卓に備え付けの常設 PC をご利用いただきます。
個別の PC 持ち込みは、ご遠慮ください。
- A 及び B 会場の一般口演では、各グループの中で最も優れた発表を最優秀発表賞として表彰致します。
(A1～6、A7～12、B1～6、B7～11 の計 4 名)

第二部：市民公開講演会 参加方法について

- 事前の参加登録が必要となります。下記 URL または右の QR コードからお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/7M24qiPdYR>



A会場（503講義室）						B会場（504講義室）					
時 間	内 容	座長 コメンテーター	番号	筆頭演者	頁	時 間	内 容	座長 コメンテーター	番号	筆頭演者	頁
						9:50-10:00	開会挨拶（集会幹事/腎臓・リウマチ膠原病内科学 要 伸也 教授）				
10:00-10:10	一般口演	腎臓・リウマチ膠原病内科学	A-1	鳥羽 麻友子 (呼吸器・甲状腺外科学)	P11	10:00-10:10	一般口演 (学生)	薬理学 生物学	B-1	柳沢 はるか (診療放射線技術学科4年)	P19
10:10-10:20			A-2	鶴田 貴大 (呼吸器・甲状腺外科学)	P12	10:10-10:20			B-2	大竹 萌子 (診療放射線技術学科4年)	P20
10:20-10:30			A-3	山口 大貴 (整形外科学)	P12	10:20-10:30			B-3	渡邊 敬登 (診療放射線技術学科4年)	P20
10:30-10:40			A-4	平山 健次 (脳神経内科学)	P13	10:30-10:40			B-4	清水 恭佑 (診療放射線技術学科4年)	P21
10:40-10:50			A-5	榎本 裕美 (病院・放射線部)	P13	10:40-10:50			B-5	清川 怜那 (診療放射線技術学科4年)	P21
10:50-11:00			A-6	藤澤 祐基 (保リハビリテーション学科)	P14	10:50-11:00			B-6	久野 優衣 (診療放射線技術学科4年)	P22
11:00-11:10		呼吸器・甲状腺外科学	A-7	井上 美帆 (産科婦人科学)	P15	11:00-11:10		保・診療放射線技術学科	B-7	松山 電 (看護学科(看護看護)4年)	P23
11:10-11:20			A-8	中川 種友 (整形外科学)	P16	11:10-11:20			B-8	川村 紗羅 (臨床工学科4年)	P24
11:20-11:30			A-9	森 洋胤 (整形外科学)	P16	11:20-11:30			B-9	内田 早紀 (臨床検査技術学科4年)	P24
11:30-11:40			A-10	新井 詩織 (腎臓・リウマチ膠原病内科学)	P17	11:30-11:40			B-10	面谷 悠希 (臨床検査技術学科4年)	P25
11:40-11:50			A-11	橋本 直也 (病院・放射線部)	P17	11:40-11:50			B-11	今井 龍一 (臨床検査技術学科4年)	P25
11:50-12:00			A-12	小牧 すずほ (保健学研究科)	P18						

大学院講堂（市民公開講演会）	
13:00	開場
13:30-15:30	市民公開講演会 「遺伝性腫瘍の最新情報」

C会場（505講義室）						D会場（604講義室）					
時 間	内 容	座長 コメンテーター	番号	筆頭演者	頁	時 間	内 容	座長 コメンテーター	番号	筆頭演者	頁
10:00-10:10	R 4 医学部 学内研究助成 研究報告	消化器内 科学	C-1	長瀬 美樹 (肉眼解剖学)	P26	10:00-10:10	R 4 医学部 学内研究助成 研究報告 ・ R 4 杏林医学 会研究助成金 制度 研究報告	脳卒中医学	D-1	三好 潤 (消化器内科学)	P32
10:10-10:20			C-2	増田 正次 (耳鼻咽喉科学)	P27	10:10-10:20			D-2	三好 潤 (消化器内科学)	P33
10:20-10:30			C-3	三戸部 治郎 (感染症学)	P27	10:20-10:30			D-3	下田 由莉江 (皮膚科学)	P33
10:30-10:40			C-4	末弘 淳一 (薬理学)	P28	10:30-10:40			D-4	田中 良太 (呼吸器・甲状腺外科学)	P34
10:40-10:50			C-5	西 智子 (循環器内科学)	P28	10:40-10:50			D-5	小澤 悠里 (小児科学)	P35
10:50-11:00	休 憩					10:50-11:00			D-6	菅原 大介 (顕微解剖学)	P35
11:00-11:10	R 4 医学部 学内研究助成 研究報告	脳神経内科 学	C-6	里見 介史 (病理学)	P29	11:00-11:10	R 3・R 4 保健学部 共同・個人 研究奨励賞 研究報告	保・臨床検 査技術学科 保・健康福 祉学科	D-7	玉田 尚 (救急救命学科)	P36
11:10-11:20			C-7	渥美 剛史 (病態生理学)	P30	11:10-11:20			D-8	石井 さなえ (臨床検査技術学科)	P37
11:20-11:30			C-8	北条 史 (実験動物施設)	P30	11:20-11:30			D-9	堀口 幸太郎 (健康福祉学科)	P37
11:30-11:40			C-9	田中 良太 (呼吸器・甲状腺外科学)	P31	11:30-11:40			D-10	坂田 好美 (臨床工学科)	P38
11:40-11:50			C-10	三浦 みき (消化器内科学)	P31	11:40-11:50			D-11	摂津 黎 (臨床検査技術学科)	P38

* A会場、B会場の一般口演では、各グループの中で最も優れた発表を最優秀発表賞として表彰致します。(A1～6、A7～12、B1～6、B7～11の計4名)

* 令和5年度の幹事教室、当番教室は以下の通りです。

幹事教室 医・腎臓・リウマチ膠原病内科学

当番教室 医・脳神経内科学

医・呼吸器・甲状腺外科学

医・脳卒中医学

医・薬理学

医・生物学

保・診療放射線技術学科

受賞者一覧

第8回杏林医学会誌優秀論文賞

- 関 健介（保・診療放射線技術学科）：フラン脂肪酸代謝産物が及ぼす酸化傷害促進効果に関する研究. 杏林医学会雑誌. 2022; 53(2):31-37.
- 中村淳史（保・臨床工学科）：人工心肺に使用される静脈リザーバの血流解析. 杏林医学会雑誌. 2022; 53(1):3-10.

第12回杏林医学会研究奨励賞

- 持田勇希（医・救急医学）：Piezo2 expression and its alteration by mechanical forces in mouse mesangial cells and renin-producing cells. Sci Rep. 2022; 12(1):4197.
- 蓮井宣宏（医・消化器・一般外科学）：In vitro ballooned hepatocytes can be produced by primary human hepatocytes and hepatic stellate cell sheets. Sci Rep. 2022; 12(1):5341.
- 舟橋紗耶華（医・循環器内科学）：Characterization of Polyvascular Disease in Heterozygous Familial Hypercholesterolemia: Its Association With Circulating Lipoprotein(a) Levels. J Am Heart Assoc. 2022; 11(16):e025232.
- 小野慶介（医・腎臓・リウマチ膠原病内科学）：Clinical characteristics of patients with spondyloarthritis and inflammatory bowel disease versus inflammatory bowel disease-related arthritis. Rheumatol Int. 2022; 42(10):1751-1766.
- 三浦佑介（医・循環器内科学）：Association of Potassium Level at Discharge with Long-Term Mortality in Hospitalized Patients with Heart Failure. J Clin Med. 2022; 11(24):7358.

第12回学生リサーチ賞（令和4年度） ※学年は決定時

〔医学部早期体験学習Ⅰ部門〕

- 岡田直樹, 高田真帆, 鶴巻初芽, 名倉晴香（医学部1年） 推薦者：江頭説子講師（医・医学教育学）
医学部1年生カリキュラム「地域体験学習報告会」最優秀グループ「公衆衛生から見る感染症対策」

〔保健学部卒業研究部門〕

- 高橋舞優, 桃山 希, 矢野椎菜（保健学部4年） 推薦者：青山 泉講師（保・看護学科看護養護教育学専攻）
研究テーマ「がん患者における不安の緩和を目的としたアロマセラピーについての文献検討～豊かな環境を整える看護とは～」
第25回日本アロマセラピー学会学術総会発表
- 大野 彩（保健学部4年） 推薦者：山本智朗教授, 橋本雄幸教授（保・診療放射線技術学科）
研究テーマ「Deep Learningを用いたMRIモーションアーチファクトの軽減～cartesian scanとradial scanの比較～」
- 池田健悟, 川原夕乃, 高木怜央, 中村爽羽（保健学部4年） 推薦者：原田祐輔学内講師（保・作業療法学科）
研究テーマ「VRを利用した実動作練習はパフォーマンスの結果に影響を与えるのか？」
- 酒井悠太（保健学部4年） 推薦者：岸野智則教授（保・臨床工学科）
研究テーマ「Arterial Stiffness Index (ASI) の算出原理を検証する－ArterioVision MS-3000の使用経験を交えて－」
第21回日本血管血流学会学術集会若手演題部門 優秀演題賞受賞

〔医学部学外活動部門〕

- 百瀬利一（医学部6年） 推薦者：河野隆志教授, 伊波巧学内講師（医・循環器内科学）
第262回日本循環器学会関東甲信越地方会Student Award Sessionでの発表内容がcase reportとしてCJC Open (Canadian Cardiovascular Society) に採択
「Combination Therapy with Pulmonary Vasodilatation and JAK2 Inhibition for Pulmonary Hypertension with Polycythemia Vera」(CJC Open 2022; 5(1):90-92)
- 西竹美緒（医学部6年） 推薦者：河野隆志教授, 菊池華子助教（医・循環器内科学）
第265回日本循環器学会関東甲信越地方会Student Award Session 最優秀賞
「先天性門脈静脈短絡を合併した肺動脈性肺高血圧症の一例」
- 大竹もも（医学部3年） 推薦者：長瀬美樹教授（医・肉眼解剖学）
第127回日本解剖学会総会・全国学術集会 学生セッション口頭発表
「解剖実習体のオートプシーイメージングで発見された前立腺癌骨転移の1例～医療画像と肉眼解剖所見, 病理所見の比較～」

令和5年度杏林医学会 市民公開講演会

遺伝性腫瘍の最新情報

令和5年11月18日（土曜日）13：30～（開場 13：00）
杏林大学三鷹キャンパス 第2病棟4階 大学院講堂

プログラム

座長： 井本 滋
杏林大学医学部乳腺外科学 教授

13：30-13：40 遺伝性腫瘍とは

井本 滋
杏林大学医学部乳腺外科学 教授

13：40-14：00 遺伝性大腸がんの診断と治療

須並 英二
杏林大学医学部消化器・一般外科学（下部消化器外科）教授

14：00-14：20 遺伝性乳がんの診断と治療

関 大仁
杏林大学医学部乳腺外科学 講師

14：20-14：30 休憩

14：30-14：50 遺伝性卵巣がんの診断と治療

小林 陽一
杏林大学医学部産科婦人科学 教授

14：50-15：10 遺伝情報を診断や治療・予防に活かすこと

菊地 茉莉
杏林大学医学部附属病院臨床検査部/遺伝子診療センター 認定遺伝カウンセラー

15：10- 質疑応答・閉会挨拶

遺伝性腫瘍とは

杏林大学医学部乳腺外科学 教授
井本 滋

腫瘍は正常な細胞の機能に異常が起きることから発生します。多くはウイルスや細菌などの感染症、アルコール、タバコ、紫外線など外的な要因によって発生します。一方、体を構成する遺伝子情報はDNAに収められていますが、精子あるいは卵子のDNAの異常から発生する腫瘍が遺伝性腫瘍です。遺伝子情報を解析する技術と遺伝性腫瘍を疑う家系情報から遺伝性腫瘍は解明されつつあります。今回は、乳癌、婦人科癌、消化器癌における遺伝性腫瘍と遺伝カウンセリングの重要性についてご講演いただきます。

遺伝性大腸がんの診断と治療

杏林大学医学部消化器・一般外科学（下部消化器外科） 教授
須並 英二

大腸がんの罹患数は増加の一途をたどっており、最も身近ながんの一つとして社会的関心も非常に高まっています。大腸がんの危険因子としては、年齢（50歳以上）、肥満、赤身肉や加工肉の摂取、飲酒、喫煙、糖尿病などがあげられており、適度な運動や食物繊維・果物・野菜の摂取などが大腸がんの発生を抑制するとされています。がんの発生部位別に見ると、大腸のがんは、年間の罹患数は1位、死亡数は2位となっています。そして統計学的に計算すると、一生のうちで男性では10人に1人が、女性では12人に1人が大腸がん罹患することになります。

一般的な多くの大腸がんは、加齢、生活習慣、環境因子などの影響により大腸の粘膜にある正常な細胞に様々な遺伝子異常が起こり、それらが積み重なった結果としてがんが発生すると考えられています。一方で、頻度はそれほど高くなく、全大腸がんの5%程度ですが、生まれつき既知の特定の遺伝子に異常があるため、それが原因となって大腸がんが発生することも知られています。この遺伝子異常は次の世代に引き継がれるため、これを遺伝性大腸がんといいます。また、原因となる遺伝子異常などはまだ不明ですが、全大腸がんの20～30%では血縁者に複数の大腸がんが認められます。これは家族集積性大腸がんと呼ばれます。

遺伝性大腸がんとして頻度の高い疾患は、家族性大腸腺腫症（Familial adenomatous polyposis：FAP）とリンチ症候群があげられます。あまり馴染みのない疾患・症候群かと思いますが、一般的な大腸がんとは異なる特徴を有することが知られていますので講演内で少し解説をさせていただきたいと思います。

大腸がんの増加、社会の超高齢化に伴い家系内に大腸がんが発生する機会も増加しております。外来などでは、最近兄弟が大腸がんになったので心配で、とか、家族には今までがんはいなかったのに何故、などがんの家族歴と関連付けたご意見を伺うことが増えております。本講演では大腸がんの遺伝に関してわかりやすくお話しさせていただきたいと思います。

遺伝性乳がんの診断と治療

杏林大学医学部乳腺外科学 講師
関 大仁

国立がん研究センターによるがん統計（2019年データ）では、日本人が生涯にがんと診断される確率は男女ともに2人に1人と報告されています。この中でも乳がん罹患数は97,142人（9人に1人）と年々増加傾向にあり、現在、乳がんは女性の罹るがんの中で最も多い疾患です。

乳がん発症者の7～10%は遺伝が大きく関与している「遺伝性乳がん」であることが知られています。そのうち、58%を占めるのが「遺伝性乳がん卵巣がん症候群（Hereditary Breast and Ovarian Cancer：HBOC）」です。HBOCでは、「BRCA1」または「BRCA2」というがん抑制遺伝子に「病的な変異」がみられます。国内ではPARP阻害薬の1つであるオラパリブが、2018年7月がん化学療法歴のあるBRCA病的バリエーション保持かつHER2陰性の手術不能または再発乳がん、2019年6月BRCA病的バリエーション保持の卵巣がんにおける初回化学療法後の維持療法として保険適用になる際にBRCA1/2の遺伝学的検査もコンパニオン診断として保険収載されました。さらに2020年4月には一定の条件を満たした乳がん、卵巣がん患者に対する遺伝性乳がん卵巣がん（hereditary breast and ovarian cancer：HBOC）診断を目的としたBRCA遺伝学的検査に保険適用が拡大し、発症前の乳房や卵巣卵管を予防的に切除するリスク低減乳房切除術（risk reducing mastectomy）やリスク低減卵管卵巣摘出術（risk reducing salpingo-oophorectomy）、健側または温存乳房に対する造影MRIサーベイランスも保険収載されるようになりました。

このように、わが国でもHBOC診療が著しい変遷を遂げており、遺伝性がんの潜在性に対する関心が高まりつつあります。本講演では最新の遺伝性乳がんの診断と治療に関してご説明させていただきます。

遺伝性卵巣がんの診断と治療

杏林大学医学部産科婦人科学 教授
小林 陽一

日本では年間約13,000人が卵巣癌もしくは卵管癌と診断され、年々増加の傾向にありますが、卵巣癌全体の約15%にBRCA遺伝子の変異が認められ、このBRCA遺伝子変異が、いわゆる乳癌卵巣癌症候群と呼ばれる遺伝性腫瘍の原因遺伝子となっています。それ以外にも遺伝性卵巣癌としてCowden症候群やLynch症候群などが知られています。通常の卵巣の検診では内診、超音波、腫瘍マーカーなどを行いますが、子宮頸癌と異なり検診の有効性は残念ながら証明されていません。卵巣癌の約半数の患者さんは発見された時には既に3期以上の進行癌が多い割に自覚症状が乏しいです。それでも卵巣癌では下痢や便秘、頻尿、お腹の張りなどの自覚症状を認める患者さんが多く認められるので、いつもと違う腹部の症状がある場合には早めの受診をお勧めします。

卵巣癌の診断は内診や経膈超音波でまず卵巣腫瘍の有無を観察し、腫瘍が認められた場合にはMRIやCT検査、採血で腫瘍マーカー検査を行い、総合的に良悪性を判断します。最終的な診断は、手術によって摘出した卵巣腫瘍を病理検査に出して確定します。癌と診断された場合には抗癌剤治療が必要な場合があります。一般的にはパクリタキセルとカルボプラチンという抗癌剤を併用しますが、病状によってはベパシズマブという分子標的薬を併用し、さらに維持療法としてPARP阻害薬という薬を長期間内服することがあります。遺伝性卵巣癌の場合はこのPARP阻害薬が有効な患者さんが多く、今までは根治できなかった患者さんでも根治が可能になりました。卵巣癌は進行癌で発見される患者さんが多いですが、現在様々な新しい薬剤が開発され、予後も向上しつつあります。何年にもわたる長期の治療期間が必要な場合もありますが、根気よく治療を受けられることが重要だと考えます。

遺伝情報を診断や治療・予防に活かすこと

杏林大学医学部付属病院 臨床検査部/遺伝子診療センター 認定遺伝カウンセラー
菊地 茉莉

個人によって異なる遺伝子を調べて正確な診断や最適な治療法の選択などを行う医療を「ゲノム医療」といい、がんや遺伝性の難病、産科や小児科などで診療への応用が急速に進んでいます。

遺伝情報の取り扱いには配慮が必要で、患者さんだけでなくご家族にも影響が及ぶことや判断が難しいこともあるため、私たちは患者さんやご家族に正しい情報を知っていただき納得して、遺伝子検査やそれに伴う治療・予防の方針などが決められるよう「遺伝カウンセリング」での支援を行っています。対象は、こども・おとなの遺伝性の病気（遺伝性のがんも含まれます）の患者さんはもちろんのこと、そのご家族、妊婦さんとパートナーなど遺伝について心配がある方となります。

本日は遺伝性のがんを取り上げます。がんの発生には、たばこや食事などの生活習慣や環境、年齢などが影響しますが、がん全体の5～10%程度は、生まれつきがんになりやすい体質が関係している「遺伝性腫瘍」と言われます。遺伝子検査によりがん細胞の遺伝情報がわかることで、最適ながんの治療法が選べるようになっただけでなく、がんになりやすい体質がわかることで、治療後の検診やがん予防などがより適切に行えるようになりました。また、まだ病気になっていないご家族もご自分の遺伝情報を知ることで適切ながん予防ができるようになりました。

一方で、遺伝情報の取り扱いには社会的・倫理的な課題もあります。今年「ゲノム医療法」が成立し、遺伝子検査結果による不当な差別を禁止することが盛り込まれました。また、遺伝子検査で全ての病気やがんが予測できるわけではなく、陽性とわかったときにご自身や家族が将来への不安を抱えることがあるため、遺伝カウンセリングで対応しています。

遺伝子検査で可能になったこと・まだはっきりしないことを知っていただき、ご自身やご家族のゲノム医療との関わりについて考えるきっかけとなれば幸いです。

演 者 紹 介

●井本 滋（専門：乳腺腫瘍学）

杏林大学医学部乳腺外科学教室 教授

1985年慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学病院一般消化器外科，関連病院外科の出張を経て1992年より国立がんセンター東病院乳腺外科に勤務。2017年より現職。日本外科学会理事，日本がん治療認定医機構理事，Federation of Asian Clinical Oncology理事，Senologic International Societyアジア副理事長，日本乳癌学会前理事長。

●須並 英二（専門：消化器一般外科，下部消化管外科）

杏林大学医学部消化器・一般外科学教室 教授

1990年 東京大学医学部卒業。東京大学医学部腫瘍外科，大腸肛門外科，国立がんセンター外科レジデント，東京大学講師，日赤医療センター大腸肛門外科部長を経て2019年より現職。米国John Wayne Cancer Institute留学。日本外科学会：外科専門医，指導医。日本消化器外科学会：消化器外科専門医，指導医，日本大腸肛門病学会：大腸肛門病専門医，指導医。日本内視鏡外科学会：技術認定医，ロボット支援手術プロクター。

●関 大仁（専門：乳腺腫瘍学，乳房再建）

杏林大学医学部乳腺外科学教室 講師

東邦大学医学部卒業。英国リバプール大学医学部留学。慶應義塾大学大学院医学研究科外科学博士課程修了。慶應義塾大学医学部一般・消化器外科，北里大学北里研究所病院プレストセンター長，JCHO埼玉メディカルセンター乳腺外科医長を経て2023年4月より現職。日本乳癌学会専門医（指導医），日本外科学会専門医（指導医），日本抗加齢医学会専門医，がん治療認定医，乳房再建用エキスパンダー責任医師。

●小林 陽一（専門：婦人科がん，子宮内膜症，メラトニン，がんの浸潤転移）

杏林大学医学部産科婦人科学教室 教授

1986年慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学医学部産婦人科を経て1990年より聖マリアンナ医科大学産婦人科助手，講師を経て，2002年より米国バーナム癌研究所留学，2007年より聖マリアンナ医科大学産婦人科准教授，2010年より杏林大学医学部産科婦人科学准教授，2018年より現職。

●菊地 茉莉（専門：遺伝カウンセリング，遺伝性腫瘍，遺伝学的検査）

杏林大学医学部附属病院 臨床検査部/遺伝子診療センター 認定遺伝カウンセラー，臨床検査技師。

2006年金沢大学医学部保健学科卒業。2008年京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻遺伝カウンセラーコース修了。栃木県立がんセンター研究所，埼玉県立がんセンターなどを経て，2022年4月より現職。